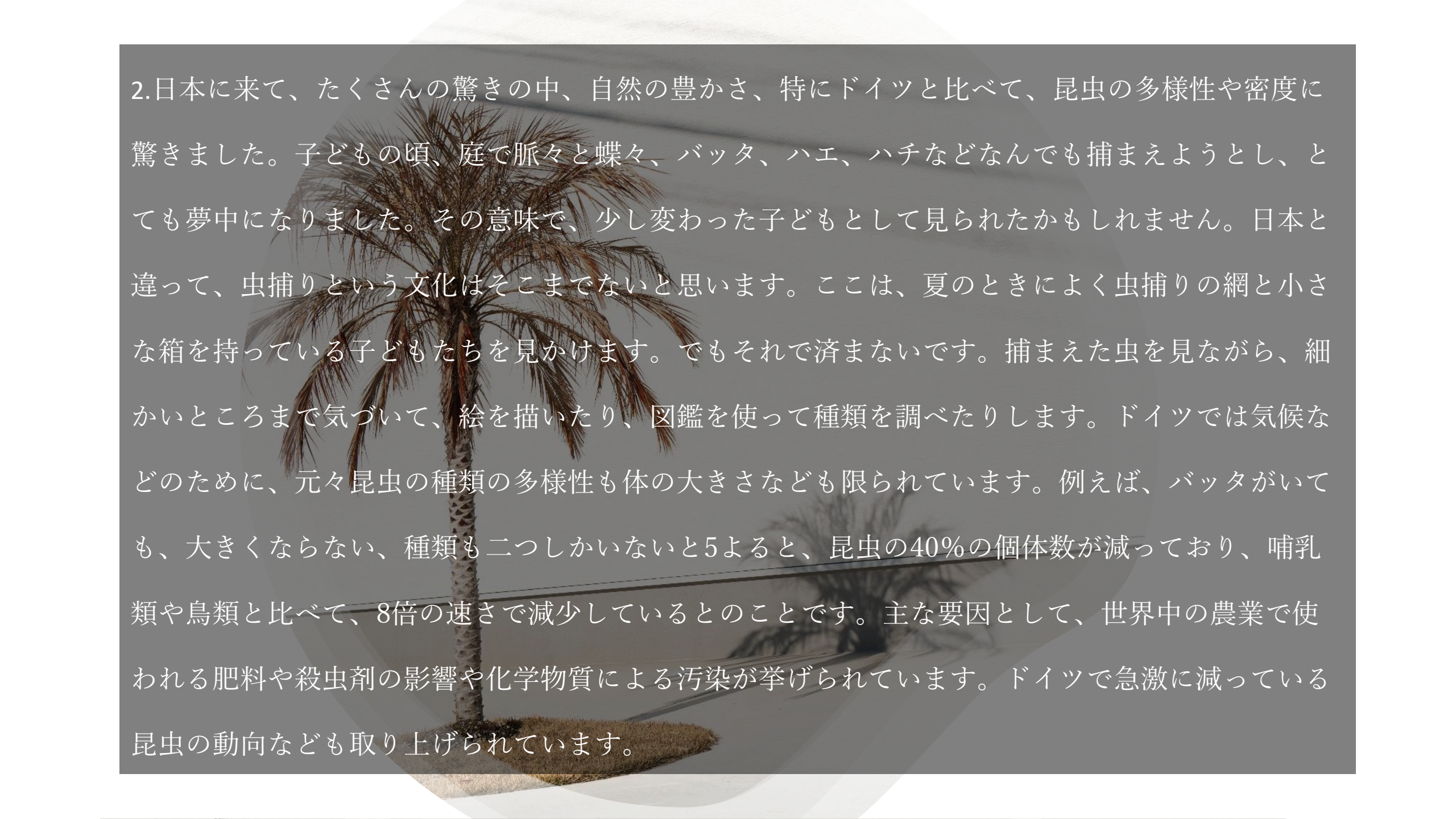


# 3月 「Insekten」 アントニア・シュルト


1. 小さい頃から社会的な問題より、気候変化、海汚染、種の絶滅などといった環境的な問題に興味がありました。そうは言っても、少し考えてみれば、殆どの環境問題は人間が原因なので、ある意味すべてが人間社会の問題ではないでしょうか。

それは別として、近年、世界中に注目を集めたグレタ・トゥーンベリの「Fridays for Future」などの運動によって環境に関わる問題への意識が高まり、主流となるメディアにも多く主題されてきています。ドイツの場合は若い世代と70年代のヒッピーカルチャーにルーツを持つ環境保護主義が一致協力し、政府でも目を背けられない現在。



A photograph of a palm tree on a small, grassy island in the middle of the ocean. The tree is the central focus, with its fronds spread out. The water is a deep blue, and the sky is a pale, hazy blue. The overall mood is serene and tropical.

2.日本に来て、たくさんの驚きの中、自然の豊かさ、特にドイツと比べて、昆虫の多様性や密度に驚きました。子どもの頃、庭で脈々と蝶々、バッタ、ハエ、ハチなどなんでも捕まえようとし、とても夢中になりました。その意味で、少し変わった子どもとして見られたかもしれません。日本と違って、虫捕りという文化はそこまでないと思います。ここは、夏るときによく虫捕りの網と小さな箱を持っている子どもたちを見かけます。でもそれで済まないです。捕まえた虫を見ながら、細かいところまで気づいて、絵を描いたり、図鑑を使って種類を調べたりします。ドイツでは気候などのために、元々昆虫の種類が多様性も体の大きさなども限られています。例えば、バッタがいても、大きくならない、種類も二つしかいないと5よると、昆虫の40%の個体数が減っており、哺乳類や鳥類と比べて、8倍の速さで減少しているとのこと。主な要因として、世界中の農業で使われる肥料や殺虫剤の影響や化学物質による汚染が挙げられています。ドイツで急激に減っている昆虫の動向なども取り上げられています。



3. 考えてみると、間違いなく、そうだと思います。子どもの頃、夏に車でどこか行っていたら、フロントガラスに虫がたくさん当たって、シミでかなり汚れた記憶がありますが、自分で車を運転できるようになったとき、もうそこまでなかったと思います。

2019年の研究によると現在、昆虫の3分の1が絶滅危惧種とされており、向こう数十年で全体の40%が絶滅する恐れがあるそうです。まあ、イエバエやゴキブリなどが少なくなっても別にいいんじゃないと思う人も結構いると思いますが、実はそういった人工の環境に馴染みやすい種の数が増えていく見込みです。

4. 一方、ハチ、アブ、チョウといった人間にとって有用な素晴らしい昆虫をすべて失ってしまう可能性は十分にあります。「虫は嫌い！」という人は、；。昆虫が人間を含む動植物にどれほど重要な恩恵をもたらしているか意識しているのかな。世界中の穀物の75%の受粉を助け、鳥や小型哺乳類に食べ物を与え、昆虫の減少が食べ物連鎖の上流まで影響を及ぼしていくに違いありません。

気が滅入るような話だけではありません。一人一人にできることがあります。それは殺虫剤を使わないこと、有機的な食品を選ぶこと、昆虫にやさしい庭造りをするなどです。

もうすぐ春ですから、一応ハチなどが喜びそうなお花を植えてみましょう。

